

令和2年高島市教育委員会
第1回定例会議事日程

日 時 令和2年1月29日(水)
午前9時30分
場 所 高島市役所 新館2階 教育委員会室

1. 教育長あいさつ

2. 令和元年第12回定例会会議録の承認

3. 議事録署名委員の指名

委員 委員

4. 報告事項

報告第1号 地域学校協働活動の現状について

5. 今後の日程

令和2年第1回定例会座席表

教育委員 川原林 正英	教育委員 小多 偕裕	教育長 上原 重治	教育委員 三矢 艶子	教育委員 田邊 栄美子
----------------	---------------	--------------	---------------	----------------

教育指導部長 川島 浩之	高島市役所新館 2階 教育委員会室	教育総務部長 北村 英明
学校教育課長 村田 秀俊	教育長 1	教育総務部次長 社会教育課長 川原林 剛
学事施設課長 辻 信孝	教育委員 4	教育総務部次長 市民会館長 山本 純子
学校給食課長 長瀬 千恵美	説明員 11	教育総務課長 大塚 寿彦
	事務局 2	
	合 計 18	

教育総務課 主事 阿慈知 美佳	教育総務課 参事 上原 真哉		図書館長 玉木 健史	市民スポーツ 課長 角野 和善	文化財課長 松田 邦幸
-----------------------	----------------------	--	---------------	-----------------------	----------------

事務局

入 口

傍聴席

報告第1号

地域学校協働活動の現状について

地域学校協働活動の現状について、別紙のとおり報告する。

令和2年1月29日

高島市教育委員会

教育長 上原重治

つながり響き合う教育によるまちづくり

■ 「子どものために」そんな志が集まる活動が始まっています

「地域の子どもたちのために…」と願うことは、家庭や学校だけでなく、地域の皆さんも同じ思いのはずです。昨年度、地域と学校が「地域の子どものため」と共通の願いのもとに、市内全中学校区で「地域学校協働活動」がスタートしました。地域ごとに地域学校協働本部を置き、それぞれ1名の地域学校協働活動推進員が地域と学校の懸け橋となって、特色を生かした取り組みを進めています。

■ 各地域における地域学校協働活動

	地域学校協働 活動推進員	推進員 活動拠点	推進員活動曜日
マキノ	谷口 良一	マキノ土に学ぶ里研修センター	火・木
今津	福田 龍己	今津東小学校 はなまる広場	月
朽木	駒井 佐和子	朽木東小学校 やまびこルーム	月～木の午後
安曇川	梅村 頼子	安曇川中学校 安中カフェ教室	月
高島	中村 眞奈美	高島学園体育館管理人室	月・木
新旭	三田村 治夫	湖西中学校 図書室（学而事人室）	月・木

* 地域学校協働活動事例（学習支援関係）

家庭科・図工科の技術支援（調理実習、ミシン・糸のこ操作）、昔遊び・郷土学習支援、九九道場・割り算道場（暗唱確認）、登下校時の見守り、あいさつ運動、環境整備（図書室ボランティア、花壇整備） など

■ 「子どものため」は地域の未来へつながります

「子どもたちから元気をももらった。」地域学校協働活動に参加することで地域の人々が集い、社会的なつながりを得られる場となっています。地域・学校がつながりを深め、未来を担う子どもたちの成長をともに支えていくため、地域学校協働活動とのさらなる連携協働をお願いします。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域学校協働活動ホームページの作成

地域の方が学校行事に気軽に参加できるよう、学校が地域の方に学校の情報を提供できるよう「地域学校協働活動ホームページ」をボランティアの協力で作成することができた。これにより学校の行事の呼びかけと地域の方からのボランティアへの申込みがインターネットで可能となったほか、行事については終了後に地域の方に報告できるようになった。



【地域学校協働活動ホームページ】

(2) 海外の子どもとの交流

中国湖南省の小学生をマキノ東小学校で受入れてもらい交流することができた。

各学年での受入れと給食試食、縦割りでの活動と言葉が通じなくても子どもたちはすぐに打ち解けて交流することができた。通訳として、地域の中国の方の協力もあり、今後の協働活動への広がりにもつながった。

■ 実施に当たっての工夫

本年度も地域学校協働活動推進員がそのネットワークを活かし、滋賀県等との連携に努めるとともに、引き続き関係団体の会議等に参加しPR等を行った。また、学校から地域に対しできるだけ情報を提供できるよう「地域学校協働活動」のホームページを作り情報発信に努めるとともに、各小学校



【湖南省小学校との交流】

では学校支援ボランティアの仕組みを作れるよう募集の呼びかけを行ってもらうことが出来、地域の方に学校の行事に協力していただける機会が増えた。また、学校の教師の地域の理解につながる研修会も実施してもらうことが出来た。

■ 事業の成果

- 子ども 地域への理解・関心の深まり、異世代間の交流、コミュニケーション能力の向上
- 学校 新たなボランティア人材の発掘、円滑な学校行事の実施、地域への理解・関心の深まり
- 地域 地域の教育力の向上・地域の活性化、社会参加の提供、世代を超えたコミュニティの形成

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

協働に欠かせない関係者の連携について、地域では既に横のつながりのあるネットワークが少なくとも形はできている。地域では行政等からの呼び掛けで縦割りにネットワーク組織ができるが、それぞれの構成員は同じ顔ばかりになり、地域の方が他の分野の情報を共有している。関係部署間でさらなる横の連携、情報の共有が大切である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

協働活動を進めるにあたって、学校運営協議会のメンバーはできるだけ多様なメンバーが必要であると思われるが、まだ十分ではないと考えられる。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）**（１）関係団体（今津東小はなまる広場など）との連携**

地域内の学校には、それぞれ学校単位で地域の方によるボランティア組織ができており、地域の方が学校で活動する姿が定着してきている。それら団体の活動も大切にしながら、連携を図り地域支援にも活動が広がるよう関係づくりに努めた。

（２）地域行事への参加

地域からボランティア要請のあった事業について、推進員が学校に働きかけ、環境整備活動や保育園児との交流活動に中学生ボランティアが参加した。今後も活動が広がるよう、関係団体への声掛けを行いたい。



【 地域行事への参加 】

（３）高齢者交流事業

総合的な学習の時間を利用して小学生と地域の高齢者サロンとの交流会を実施し、地域のお年寄りにとって、心温まるひと時となった。「字がうまいね」「上手に歌えたね」と地域のお年寄りにほめられ、子どもたちの自信にもつながった。

■ 実施に当たっての工夫

地域で活動をしている福祉関係やまちづくりの団体とつながりを持つことで学校行事の支援や地域活動が広がった。

■ 事業の成果

地域の様々な団体とつながることで、共に力を貸し合い協働して事業を実施することができた。それぞれの事業の規模は決して大きなものではないが、小さな変化を少しずつ重ねることで、子どもを中心に地域・学校・家庭のつながりが自然に深まるよう、地道に活動を広げていきたい。



【 本部組織準備委員会 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校支援活動が年間行事として定着しつつあるが、活動をさらに充実させるためには、多様な地域の方たちに、継続して関わっていただく必要がある。今津地域学校協働本部を組織し、持続可能な活動となるようにしたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

現在、学校運営協議会も地域学校協働活動も学校ごとに活動しているが、学校運営協議会委員からの声掛けで今津中学校区全体でビジョンを共有していくために地域学校協働本部の設立準備会が開催された。2月に開催される本部会議では、学校だけでなく地域全体で今津の子どもたちを育もうという本活動の意義や目的を確認しあい、熟議などを通じ活動がより推進するよう組織を整備していく。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 朽木西小・西地区合同運動会

へき地校である西小学校の児童4名・先生・保護者・西地区の地域の方々による合同運動会が、スポーツ少年団指導者、日赤奉仕団、地域おこし協力隊、そして、朽木東小学校・朽木中学校の児童生徒(希望者)の参加協力によりにぎやかに開催された。入場行進から各種目すべてにおいて、子どもたちや地域の方が楽しく交流しながら参加できた。

児童4名による進行、準備や招集は誰もが手伝い、和気あいあいと時には闘志をむき出しにして競技が行われた。中学生は自ら仕事を見つけて動く姿が見られ、東小学校児童は西小学校児童とふれ合いながら楽しく競技に参加することができた。

また、保護者手作りの炊き込みご飯・日赤奉仕団による豚汁が昼食に振る舞われ、地域の方と話をしながら食して交流することができた。

(2) 環境整備

広い校庭の除草作業は、小学校も中学校も地域の方の助けなしでは難しい。6月の小中合同スポーツデーを前に、実態を知った地域の方が「放っておけないな」と何日も除草作業に来てくださった。おかげですっきりした校庭で安全に元気よくスポーツデーを迎えることができた。スポーツデーでは、中学校・東小学校・西小学校・就学前児がそろい、地域の人に見守られながら成長した姿を見せることができた。

「びわ湖の日」の活動では地域の方にもメール配信で連絡し、児童生徒と一緒に除草作業に取り組んだ。

秋の花、春の花の種まき・仮植・植え替え等も地域の方と中学生と一緒に活動できた。また、学区民会議の活動の一つにこの活動を入れたり、花の土を提供してくださる方もあったりして、たくさんの花を育てることができた。

(3) 朽木文化祭参加

東小学校は、音楽発表を学習参観もかねて参加した。西小学校も、太鼓演奏で参加し、中学校は総合的な学習で取り組んでいる朽木太鼓の演奏で参加した。中学校区内全小中学校が参加できたのは初めてで、地域の方はそれぞれの演奏をにこにこ・わくわく・ジーンと心を動かされ元気・勇気をもらうことができた。会場は立ち見の方も出るくらい満員だった。



【ボランティアと中学生との環境整備】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校行事の参観案内や活動への参画依頼などをするために「朽木地域学校協働本部『結の会』連絡メール」の登録を促進した。
- ・民生児童委員の定例会を小学校で行い、地区別懇談会や地区別児童会に参加してもらった。(年2回) 中学校訪問(年1回)
- ・学期の始め・終わりに教師と、地域との関わりのある行事や学習について相談した。
- ・『結の会』便りを朽木地区全戸配布した。(年2回)

■ 事業の成果

- ・子どもたちと関わることで、基びや感動や元気を感じる地域の方々が増えた。
- ・自主的に行動する(手伝う)小中学生の姿と地域活動を結びつけることができた。
- ・地域の方が「学校の垣根が低くなった」と喜んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・園との連携を協働活動の一つとして取り組みたい。
- ・保護者や地域の人や学校(教師)の思いを大事にした協働活動にしたい。
- ・「学校づくりは地域づくり」という観点での協働活動を目指したい。

■ その他(学校運営協議会との連携等)

- ・学校運営協議会で、朽木地域全体の小中学校の実情が分かり、それぞれの立場の考えが共有できるようになってきた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域行事への支援（ボランティアまつり開催：安曇川中学校）

生徒と安曇川住民福祉ネットワーク（地域ボランティア団体）と一緒に実施。地域行事を学校内で開催できることは珍しい。

(2) 福祉関係団体との連携（安中カフェ：安曇川中学校）

学校の空き教室を地域住民の憩いの場として開放している安中カフェを地域学校協働活動の拠点にしており、地域住民と中学生の交流が深まっている。ここを活用し、多くの生徒にボランティアの良さなどを伝えていきたい。

(3) 学習支援（家庭科 伝承料理教室：安曇川中学校）

- ・伝承料理実習を地域の伝承料理クラブの6名がサポート。学校支援活動を契機にクラブが復活し、人数も増えて活性化した。
- ・他にミシンボランティア、音楽指導、校外学習引率、九九道場（暗唱確認）、昔遊び、クラブ活動応援などがある。

(4) 環境整備（本庄小学校・安曇小学校）

花壇の整備（苗の調達、植え込み作業など）は、地域の方々で実施。運動場の除草作業も実施することができた。

(5) 伝統文化の継承（運動会での「高島音頭」復活：本庄小学校）

地元の「音頭取り」と太鼓をたたく方が来てくださり、祖父母の方も参加され踊りの輪が広がった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・管内小中学校事務職員との連絡会開催
- ・積極的な情報発信（学校メールに予定の連絡やお便りを送信、複数校を担当しており一斉配信で情報共有が進んだ。）
- ・中学生の地域行事参加にむけた綿密な連絡調整（行事の趣旨理解、学校・生徒との打ち合わせ、主催団体との調整）



【 安曇川中学校での伝承料理教室 】

■ 事業の成果

- ・地域と子どもたちとの協働による行事により、相互理解が深まった。

(ボランティアまつりでの中学生の力は大きい、中学生と交流することで親しみがわいた、あいさつを交わすようになった)

- ・教職員の負担軽減 (ボランティアとの連絡調整、支援活動の事前準備など)
- ・地域人材や資源の活用 (技術を持った人による様々な支援)

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校の支援活動を地域の中でも定着させたい。
- ・地域行事の参加から参画へ (中学生の意見も取り入れられるように、早い目の計画。中学生の参加のところが中学生の意見を聞きながら取り入れていきたい。)
- ・学校、地域、保護者 (PTA) がコミュニティ・スクールについての理解を深め、共に活動を進められるといい。
- ・学生や教師を目指している人などと連携をして学習の補充などの紹介をしてほしい。
- ・地区に対しても「中学生のボランティア」を推奨し、地域で中・高生のふれあいをふやせるといい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

- ・学校運営協議会では「もっとどのような子どもに育てたいか」を話し合い、学校と地域が共通の目標を持ち、地域学校協働活動と一体化して進められるとよい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）昼休み実施の「道場」活動

3年目を迎えた、九九（2年対象）・わり算（3年対象）・昔遊び（全学年）道場。児童そして学習ボランティア共に大好評で、昼休みの短い時間も教室内は多いに盛り上がる。九九・わり算道場に参加することで、学習意欲が向上し、確認テストの結果にもその成果をみる事が出来た。また、中学生の参加も倍増し学園全体の取り組みとなった。



【ボランティア+図書委員で活動】

（2）授業へのかかわり

小学校ではこれまでの、家庭科ミシンサポート、町たんけんの案内活動等に加えて、新たに委員会へ地域のボランティアが加わった。特に図書ボランティアと図書委員が協力し企画・立案した事業は大成功となり、地域の皆さんとの繋がりがより深まった。

また中学校では2年続けて全校自然体験活動に多くのボランティアの参加で何事もなく事業を終えることが出来た。

（3）学校が地域へ

中学生が高島の伝統行事「大溝祭り」に曳き手として、また地元の開催の「たかしま夏まつり」にスタッフ参加するなど、年を重ねるごとに地域行事には無くてはならない存在と位置づけされるようになった。また新たな活動として福祉施設に春と冬に各1週間訪問するなどとして高齢者の皆さんと交流を深めるなど、福祉活動にも貢献した。



【地域のふれあいサロンで演奏】

■ 実施に当たっての工夫

協働活動の様子を地域住民に知ってもらえるよう、活動ごとに「学校だより」等に記事を掲載してもらうこと、また高島学園協働本部が作成した「活動だより」を関わりの多い団体に配布するなど情報発信することで、関心を持ってもらえるよう努力した。また、参加ボランティアの口コミも大きい。

■ 事業の成果

子ども・ボランティアの皆さんの顔と名前を覚えることが出来るまでになった。

生徒会でボランティア活動を重視する等、地域に対する関心が深まった。

地 域・・協働活動が少しずつ浸透することで参加ボランティアも増え、学校に対する理解も深まった。
学校に対して気軽に関わられるようになった。

学 校・・授業等への支援で教員の負担が軽減された。学校行事への参加で新たな事業も計画出来るようになった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学園内では学期ごとに担当者が話し合う機会を持ち、また推進員が参加ボランティアと意見交換を行うなどしているが、全体としての会議を今後持つようにしていきたい。従来の団体・機関・個人等のボランティアに加えて今年度は企業からの参加もあり、今後もあらゆる方面に協働活動を広めたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会で、協働活動の様子を報告して、意見を聞くなどしている。加えて活動にも参加してもらう回数が増えた。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 『徹底した学校支援活動』の展開（南小「夢の会：会員46名」、北小「希望の会：会員46名」を核にした活動）

「下校見守り隊の結成」「入学式の受付」「校庭の草刈り・剪定」「七夕集会の笹取り」「校内の修繕」「運動会前の除草」等々、できることなら何でも学校の要請に応える。もちろん、朝の読み聞かせ、図書ボランティア、調理・ミシン、電動糸ノコ、九九道場、夏の学力補充、校外学習の付き添い、マラソン大会の安全監視……。毎日のように、ボランティアが学校に出入りしている。

(2) 『学而事人おはようミーティング』の活動（湖西中学校：「むくげの花の会：会員39名」を核にした活動）

「地域の人にどんどん校内に入って、生徒の姿を見たり声かけをしたりしてほしい」との中学校の要請に応じて、昨年度から1日も欠かすことなく続けてきた。30数名の会員が都合のよい日に、始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶・声かけをする。今年度から『学而事人おはようミーティング』と名付け、会員と生徒、教師と会員、生徒と教師、会員同士、保護者と会員などにぎやかなミーティングの場としている。新しい「支援活動」が次々この場で産み出される。例えば、今年の「中学校文化祭」では、地域から三味線・琴・尺八のコラボ演奏や、陶芸・写真・短歌等6クラブの作品展展示、学而事人ファーム産の芋販売などで、支援者や参観者が大幅に増え、「地域に開かれた文化祭」に一歩も、二歩も近づいた。

(3) 『夏休み、宿題カフェ』の開催（社会福祉法人、南・北小学校、中学校、共同募金委員会、公民館の6者の協働活動）

「湖西中カフェ」を主宰している社会福祉法人の提案で、「中学校のお兄さん、お姉さんに夏休みの宿題を教えてもらおう」をキャッチフレーズに、上記6者の協働で開設した。協働本部での事前協議を受けて、小学生募集（両小学校）、中学生ボランティア募集（中学校）、ワンコインカフェと全体運営（社会福祉法人）、クレープづくり（共同募金委員会）、会場提供（公民館）等、役割を分担した。小学生は申込開始日に30名の定員をオーバーし、中学生も2年生だけで目標の15名に達した。学ぶ小学生も、教える中学生も真剣な様子、主体的に参加した両者とも貴重な体験の場であった。このような様々な団体が協働する「子どもたちを中心においた取組」を地域内に広げていきたい。



【『夏休み、宿題カフェ』の様子】

■ 実施に当たっての工夫

- (1) 新旭の偉人「清水安三先生」の教えである『学而事人』（学んで人に事える）をスローガンに掲げ、子どもも大人も協働本部への親しみと理解を深め、目標を共有しやすくした。
- (2) 3校の教職員の共通理解が大切と考え、協働本部の方針や活動状況等を情報提供するため、「学而事人室の窓」を発行した。（毎月2～3回）
- (3) 各校に「支援の会」を結成し、「月1回の定例世話人会を開催し、学校の支援要請への対応を協議する」システムを構築した。
- (4) 各「支援の会」では、学期に1回会員の集いを開催し、児童生徒・教師とのふれあいや会員同士の懇談によって、絆を深めてきた。

■ 事業の成果

- (1) 「学校の要請に、ほぼ100%応えていただけた」「教師の負担が減って、子どもに関わる時間が増えた」との小学校教師の声。「学校に入りやすくなった」と地域の人々の声が聞かれつつある。
- (2) 「生徒の聞く姿勢が良くなった、明るいあいさつが増えた、遅刻がほとんどなくなった、学習への構えが良くなった、保護者の苦情が減ったなど、大きく学校が変わってきた」との中学校長の声。保護者アンケートには「地域の方の力を感じる1年でした。子どもが何事にも熱心に取り組む姿は素晴らしい。数年前よりむっちゃ素晴らしい雰囲気です。」との声があった。
- (3) 各校「支援の会」の活動が起爆剤になり、会員外の方々や各種団体に、「学校（子ども）のためなら」と、積極的に動いていただける方が徐々に増えている。3校の今年度、ボランティアのべ人数は約6,000名が見込まれ、昨年度の倍増になる。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・各校「支援の会」のリーダー発掘、自主運営化、支援の輪の拡張を図り、持続可能な体制を構築していく。
- ・関係の団体や機関・施設等との連携・協働を進め、小・中学生の体験活動や地域貢献活動の場を広げる。
- ・町内の保育・幼稚園や学童保育所にも支援・協働の活動を広げ、地域総がかりの子育てにつなげる。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

- ・各校「支援の会」の世話人に「各学校運営協議会委員2名」が加わり、協働本部と学校運営協議会との連携を密にしている。